

私達クラブ員を含めた若い世代だけでなく 大人にも新規就農者を増やしていくために 私達クラブ員はどのようなことができるか

クラブ員代表者会議 近畿ブロック連盟 奈良県立磯城野高等学校
農業科学科 3年 吉本 夢希
施設園芸科 3年 朝日 陸斗
環境デザイン科 3年 本間 咲智

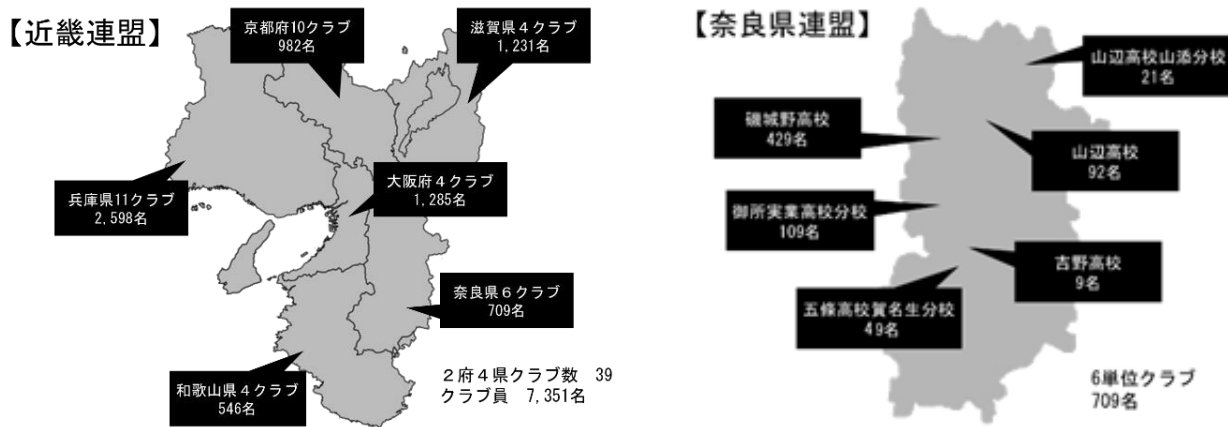
1. はじめに

(1) 近畿ブロックの紹介

近畿学校農業クラブ連盟は、和歌山県（4クラブ 540名）・滋賀県（4クラブ 1,231名）・大阪府（4クラブ 1,285名）・京都府（10クラブ 982名）・兵庫県（11クラブ 2,598名）・奈良県（6クラブ 709名）の2府4県が加盟しており、総クラブ数 39、総クラブ員数 7,345名で構成されています。

(2) 奈良県連盟の紹介

奈良県連盟は、山辺高等学校 92名・山辺高等学校山添分校 21名・五條高等学校賀名生分校 49名・御所実業高等学校 109名・磯城野高等学校 429名・吉野高等学校 9名の、合わせて計6校、クラブ員数 709名で構成されています。



(3) 奈良県の農業の特徴

奈良県は恵まれた気象条件や高い生産能力を活かして、古くから農業が発達してきました。京阪神大消費地への至近性を活かし、多品目少量生産ながら、高度な栽培技術を駆使した生産性の高い多彩な農業を展開しています。また、「大和野菜」など奈良の特産品として特徴をアピール出来る戦前から生産が確認されている伝統的な野菜も栽培されています。

2. 奈良県連盟の活動

(1) 磯城野高等学校の紹介

2007年に統廃合され、磯城野高等学校として開校されました。奈良県では一番大きい農業高校で、人と自然を環境の視点から学び、科学技術の進展や産業社会の発展に主体的・創造的に貢献できるスペシャリストの育成を目指す実践的体験型の専門高校です。農業系の4学科(8コース)と家庭系3学科があります。農業系は野菜や草花、穀物についてだけでなく、造園や庭園の設計、畜産、バイオについて学ぶコースがあります。また、広い敷地内に各学科の充実した施設群があり高度な専門教育を実現しています。

(2) 磯城野高等学校の活動事例

「ふれあい」活動の一つとして直売所「しきの 彩」があり、営業時間は毎週火曜日の放課後15時40分～16時までの20分間です。昨年度は、36日間の営業で年間2562人のお客様にご来店いただきました。11月に行われた地元駅前活性化イベント「やどかり市」に出店し、たくさんのお客様と交流を行いながら自分たちで栽培した野菜を購入して頂きました。直接、顔を見て「美味しかったよ。」と言っただけの時はとても嬉しかったです。1年に2回程度、普段は地域の方々向けに販売しているのを生徒に向けてする「生徒感謝デー」もしています。限定でちんすこうやキュウリの浅漬けなども販売し、楽しみにしてくれていた生徒たちがたくさん買いに来てくれました。これらの活動を通して地元田原本に貢献し高校と地域が相互に影響し合う良い関係を築けるように今後とも努力していきたいと思っています。

学科コースごとでも様々な活動をしています。地域の幼稚園や小学校に協力してもらい、ウサギやニワトリとの触れ合いをする「ふれあい動物教室」や野菜の栽培方法などを見学してもらう「野菜の教室」を行っています。また、ニワトリの解体教室を開き実際に体験してもらうことで「命の大切さ」を感じ、食肉解体業者のおかげで食肉を手に入れる現状を知ってもらうことを目標に活動しています。他にも、本校では技能五輪全国大会や若年者ものづくり競技大会での銀賞を獲得し、本校で造園を学ぶ生徒と芸術部でアートとテクノロジーが融合したメディア芸術を学ぶ東京工芸大学がARアプリの「ココニワ」を共同開発しました。これは「依水園」をより深く楽しめるよう開発されたアプリで、庭園に溶け込むように



木製のマーカーを製作し、庭園内に案内看板を設置できないという依水園の悩みを解決しました。アプリは多言語にも対応しており、日本語・英語・韓国語・中国語の計4か国語に対応しています。実際に外国人の方にも使用していただき、意見を聞くことと好評をいただくことができました。「ココニワ」で日本人はもちろんたくさんの外国人の方にも依水園を楽しんでいただけるようになりました。

(3) 他校の活動事例

【山辺高等学校】

地域の特産品であるお茶の栽培をしており、農業体験交流事業を通し、地域の方々をお招きして、茶摘みや製茶工場の見学、小動物の触れ合い、草花の定植体験をしています。高齢者や家族連れが参加し、皆さん初めての体験とあって、とても興味を持って取り組まれています。



【山辺高等学校山添分校】

毎年11月に地域で開催される農業祭「ふれあいまつり」に参加し、学校で栽培した野菜や草花の販売を行い地域との交流を図っています。他にも、地域の役場に学校で作成した門松を贈呈して使用していただいています。



【五條高等学校賀名生分校】

地域の農家さんから直接学ぶ「農家実習」を行っています。他にも、地域の祭りに参加し、広い年齢層の方々との交流もしています。これが農業に取り組む地域の若い皆さんとの交流のきっかけにもなっています。地域伝統の産業である、林業や製菓業との協力も進めています。



【御所実業高等学校】

ジャンボタニシは食用目的として移入された外来種の巻貝です。養殖施設からの逃亡などにより特に温暖な地方の水田や水路に定着し、生育するようになりました。水田のイネの食害などの農業被害が問題となっています。2012年からジャンボタニシの誘引餌の開発に取り組んでいます。地域の酒造メーカーと協力し、製造工程で発生する酒粕を使った水田における害虫のジャンボタニシの食害防除の取り組みを行っています。



【吉野高等学校】

吉野ヒノキで作ったベンチを奈良公園バスターミナルに贈呈、東京で開催されたWOODコレクション(モクコレ)2019に参加し奈良吉野のPR、活動PRを行いました。他にも、林野庁近畿中国森林管理局の協力で、クラブという競技の体験会を実施、SNSを使った情報発信もしています。



3. 今回の活動事例

本校は、大和野菜をより多くの人に知ってもらうため、近畿日本鉄道と共同で「大和野菜列車」の運行を高校生が企画し、校内で栽培されている大和野菜を提供するだけでなく、フードデザイン科の生徒が作った「手作り弁当」や「大和をイメージしたスイーツ」を提供しました。

車内での活動は、お弁当などの栄養素の説明やレシピの紹介、大和野菜の実物やパネル展示、交流タイム、車内販売です。運行区間は、橿原神宮前駅の出発後、大和西大寺駅を経由、大阪上本町駅で降車休憩し橿原神宮前駅に戻ってきます。対象者は、年齢・性別を問わず募集し男性31名、女性33名、小学生6名、乳幼児2名の計72名に参加していただきました。車内ではじゃんけん大会やクイズ大会を行い、どの年齢でも参加しやすい簡単なゲームを企画しました。お弁当には、大和まな や千筋みず などを利用し、参加者には、「来年もまた、行ってほしい!」というコメントや「大和野菜に興味を持ちました。家でも作ってみようと思います。」というコメントもいただきました。

これらのイベントは近畿日本鉄道の方々と話し合い、高齢者から子供までの幅広い年齢でも楽しめるように計画を立てました。地元企業とのコラボレーションにより開発した商品の販売をするなど様々な人に協力していただき学校だけでなく地域で一丸となる企画となりました。

4. 今後の展望

この課題において、私たちは大人とはインターネットを利用する世代と高齢者に分けられると考えました。前者ではSNS、後者はふれあい活動を行うことにより、私たちクラブ員から農業について伝えていくことができます。

新規就農者の人数は10年前と比べて増加傾向であり、より多くの人たちに農業の魅力・必要性を訴え興味を持ってもらえることで、農業を始めてみたいと思う人が更に増えるのではないかと考えました。このことから私達は、農業クラブの活動をより活性化させ、近年発達しているSNSを中心により効果的な方法を考え、情報発信に努めていきます。

